

牛群検定の利活用などについて解説記事を掲載しています

1 平成23年度牛群検定成績速報から

全酪新報9月20日号 日本ホルスタイン登録協会

牛群検定成績速報について詳しく解説されています。

日本ホルスタイン登録協会ホームページ

<http://hcj.ln.gr.jp/frame2.htm>

機関誌ホル協 検索

平成23年度牛群検定成績速報は以下をご参照ください。

<http://liaj.ln.gr.jp/japanese/newmilk/index.html>

乳牛最新情報

検索

2 繁殖台帳Webシステムの紹介

デーリイマン10月号 シリーズ発情を見極める

繁殖台帳Webシステムを利用した繁殖管理について解説。新機能である検定情報サマリーや交配種雄牛情報についても紹介してあります。

3 次世代診断関連の解説

デーリイジャパン8月9月号、デーリイマン7月8月号、畜産技術9月10月号、

L I A J ニュース5月7月号

以上4誌に牛群検定の新しい情報である次世代診断を解説しています。

4 新しい検定成績表について(その22)一経営情報の見方(損益分岐点)一

L I A J ニュース(家畜改良事業団) N o 1 3 6 平成24年9月号

儲かってますか? 1頭あたり北海道では8090kg、都府県では7495kgを年間に搾らなければ儲かっているとは言えません。その理由は本解説で詳しく紹介しております。入手については、最寄りの種雄牛センターまたは事業所にお問い合わせいただければ、無料でお送りします。

バックナンバーは、以下の当団ホームページをご参照下さい。

<http://liaj.ln.gr.jp/japanese/kentei/kentei.html>

牛群検定情報

検索

乳量計レンタルの対象機種に新機種が登場!

ワイカト社製スピードサンプラーおよびMK-5!

当団では保守と性能検査がセットになったお得な乳量計のレンタルを行っています。

従来のツルーテスト社製のF型FV型に加え、標記の2機種が新たにレンタル対象となりました。

牛群検定を無料で体験できる牛群検定の試行とあわせてご検討ください。

乳量計レンタル、牛群検定の試行、繁殖台帳Webシステム について詳しくは、

当団ホームページ <http://liaj.ln.gr.jp/>

家畜改良事業団

検索

体細胞数を改善しよう!

「高体細胞数影響率」の活用!

検定成績表(様式A、B)による体細胞数の管理方法の代表的なものに高体細胞影響率があります。これは、出荷乳(バルク乳)に対する個体の影響度合いを示します。

右図の具体例では、0319号牛は1170千個と高い値を示しています。仮に、この0319号牛については乳房炎の治療に専念し出荷乳から除外したとすれば、出荷乳の体細胞数が12%下がります。これが高体細胞数影響率です。治療専念すべきかどうか、高度な経営判断を行う際の、数値として利用してください。

牛 コード	分 娩					体 細 胞		
	年 月 日	産 次	産 子 性 別	難 易	高体細胞 影響率	体細胞数(千/ml)		
						今月 (千/ml)	前月	前々月
0322	230809	1	♀	1	54			
0321	230806	1	♂	1	82			
0309	230802	3	死産	1	158			
0301	230612	3	♀	1	29		102	
0320	230604	1	♀	1	92		54	36
0302	230412	3	♂	1	211		122	144
0319	230329	1	♀	1	▲1170	12△	312	232
0310	230328	4	♀	1			▲9865	35

平成24年度後代検定調整交配にご協力ください！

平成24年度後代検定事業の候補種雄牛の調整交配が始まりました。

調整交配は、乳用種雄牛の遺伝評価成績の元となる大事な交配です。雌牛が生まれた場合は、育成の段階で牛群検定に加入するようにお願いします。なお、今回の調整交配は、順調であれば平成28年ごろに選抜される乳用種雄牛の遺伝評価成績の元となります。

調整交配期間 前期 100頭 平成23年11月～24年2月

調整交配期間 後期 85頭 平成24年4月～24年7月

- 1) 今回の調整交配では、調整交配精液を検定牛に交配することにより、雌牛1頭当たり1,000円の奨励金が支払われます。(高泌乳持続性乳用種雄牛利用促進事業)
- 2) 交配対象の検定牛の繁殖性データを収集し父牛の泌乳持続性との関連等を分析することを事業の目的としています。このため以下の条件を満たしていることが必要となります。
 - 条件1：交配した検定牛が血統登録牛であること。
 - 条件2：授精開始から受胎（またはデータ集計時点）までの、全ての授精記録の報告があること。
 - 条件3：特に未経産牛への調整交配にあっては、初回授精を行う前に対象の未経産牛が牛群検定に加入し、全ての授精の記録を牛群検定を通じて報告できる体制がとられていること。(初回授精が調整交配でなくとも同様です)

「生まれた雌子牛は育成段階で牛群検定加入を！」

生まれた雌子牛は、
遅くとも初回授精を開始するまでには
牛群検定に加入させましょう。

牛群内のすべての育成牛が早期に牛群検定に加入することによって、需要に見合った生乳の生産など経営計画が立てやすくなります。また、繁殖台帳Webシステムなどの利用価値も高まります。

育成段階での検定加入が徹底されると、牛群検定成績表の内容が一層充実するだけでなく、後代検定娘牛の保留状況や初産分娩に関する繁殖記録の正確かつ迅速な把握が可能となり、後代検定をより円滑に実施できるようになります。

未経産牛については、牛群検定費用は徴収されません。後代検定娘牛の早期牛群検定加入を徹底させましょう。



！ 育成段階で検定加入するメリット

- 1 分娩予定
牛群検定より授精を報告することで正確な分娩予定日等を得られます。
- 2 遺伝情報
PA(両親の推定育種価)により、遺伝能力が得られます。
- 3 次世代診断情報
登録牛であれば初産分娩時の注意情報(難産や死産)が得られます。
- 4 交配種雄牛情報の利用
繁殖台帳Webシステムにより近交等を避けた優良な交配種雄牛の選定ができます。

検定未加入の12ヶ月齢以上の育成牛は、検定組合PCから検定立会時に検定員のハンディターミナル(ARK-400)にデータ送信されていますので、ワンタッチで未経産加入ができます。